

地域リハビリテーションの事例報告

○ 地域リハビリテーションの事例報告

① 埼玉県

② 埼玉県川越市

③ 山梨県笛吹市

○地域リハビリテーションの事例報告

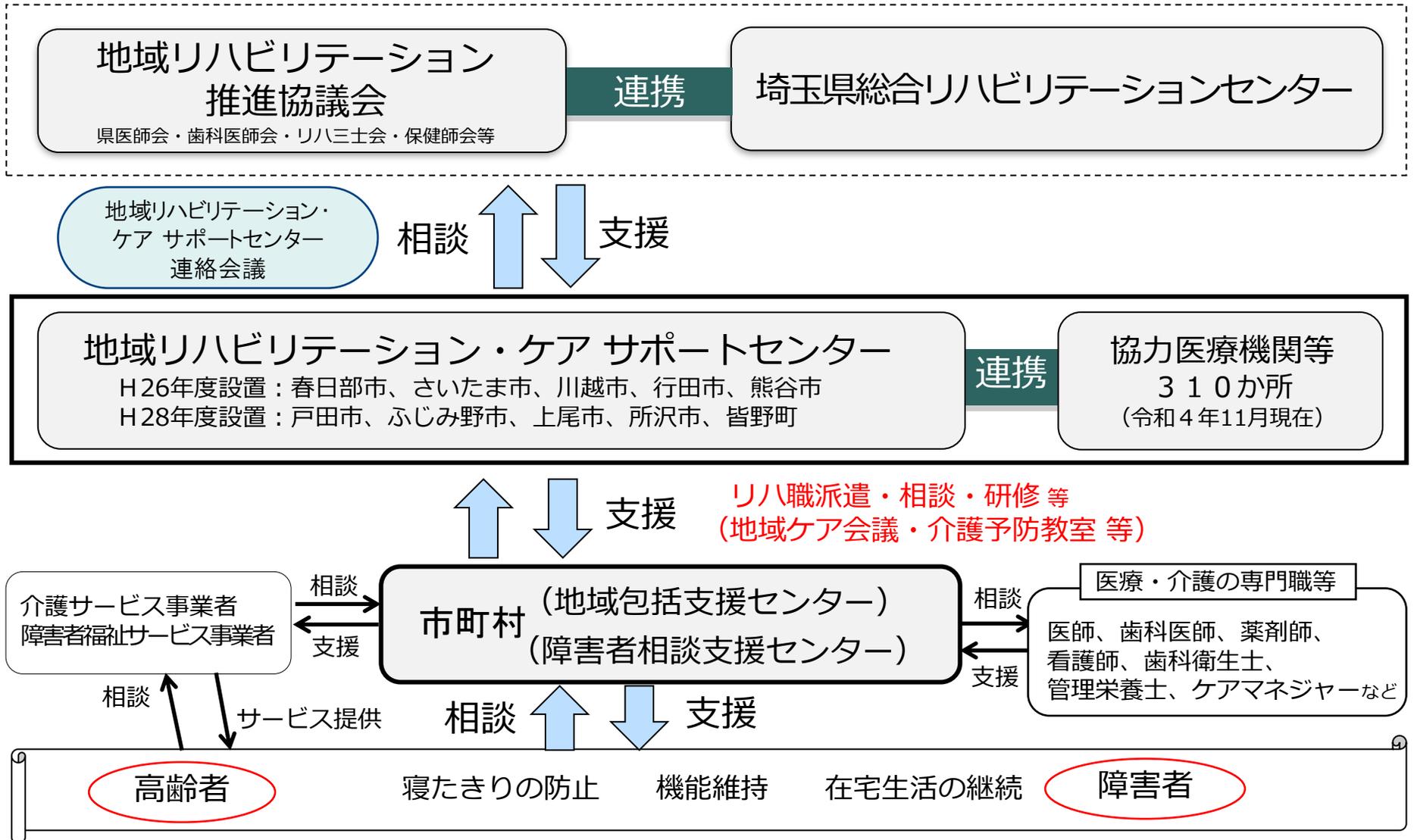
① 埼玉県

② 埼玉県川越市

③ 山梨県笛吹市

都道府県レベル

【埼玉県】 埼玉県 地域リハビリテーション支援体制



埼玉県地域リハビリテーション体制の再構築

- 平成12～17年 : 埼玉県地域リハビリテーション支援体制整備推進事業
- 平成18年 : 地域包括支援センターおよび県総合リハビリテーションセンター
地域支援担当に事業移管し、終了

- 平成23年3月11日 : 東日本大震災 発災
- 平成23年3月15日 : 原発事故によりさいたまスーパーアリーナへ避難
- 平成23年3月22日 : 県医師会長の要請により、ボランティア活動開始
- 平成23年4月15日 : 震災対応廃用予防ボランティアミーティング（250名）
- 平成23年4月20日 : 埼玉県（旧騎西高校）に避難された、福島県双葉郡双葉町に対し、
県の医師会、理学療法士会、作業療法士会および言語聴覚士会で、
4団体合同リハビリボランティア組織「CBR-Saitama Med.」を
結団し、廃用予防を目的としたボランティア活動を開始。

- 平成25年2月 : 県議会で質問「埼玉県のリハビリテーション体制を問う」を受け
地域包括ケアの実現に向けた地域リハ支援体制の再検討
- 平成26年4月 : 埼玉県地域リハビリテーション支援体制整備事業 新規事業開始

リハビリテーション職を派遣するスキームと多団体での協力体制が原点に

埼玉県地域リハビリテーション推進協議会

会長：齊藤正身会長

医療法人真正会 理事長、（一社）日本リハビリテーション病院・施設協会 会長

構成：

学識経験者、医師会、歯科医師会、
理学療法士会、作業療法士会、
言語聴覚士会、市町村保健師協議会、
介護支援専門員協会、
地域包括支援センター代表、障害者相談
支援センター代表、
埼玉県（福祉部・保健医療部・
総合リハビリテーションセンター）

内容：（最近の議題）

- ・ コロナ禍における地域リハビリテーションのあり方について
- ・ 協力医療機関等の新規追加指定について
- ・ 地域リハビリテーションの周知の取組について 等

埼玉県地域リハビリテーション推進協議会 委員名簿

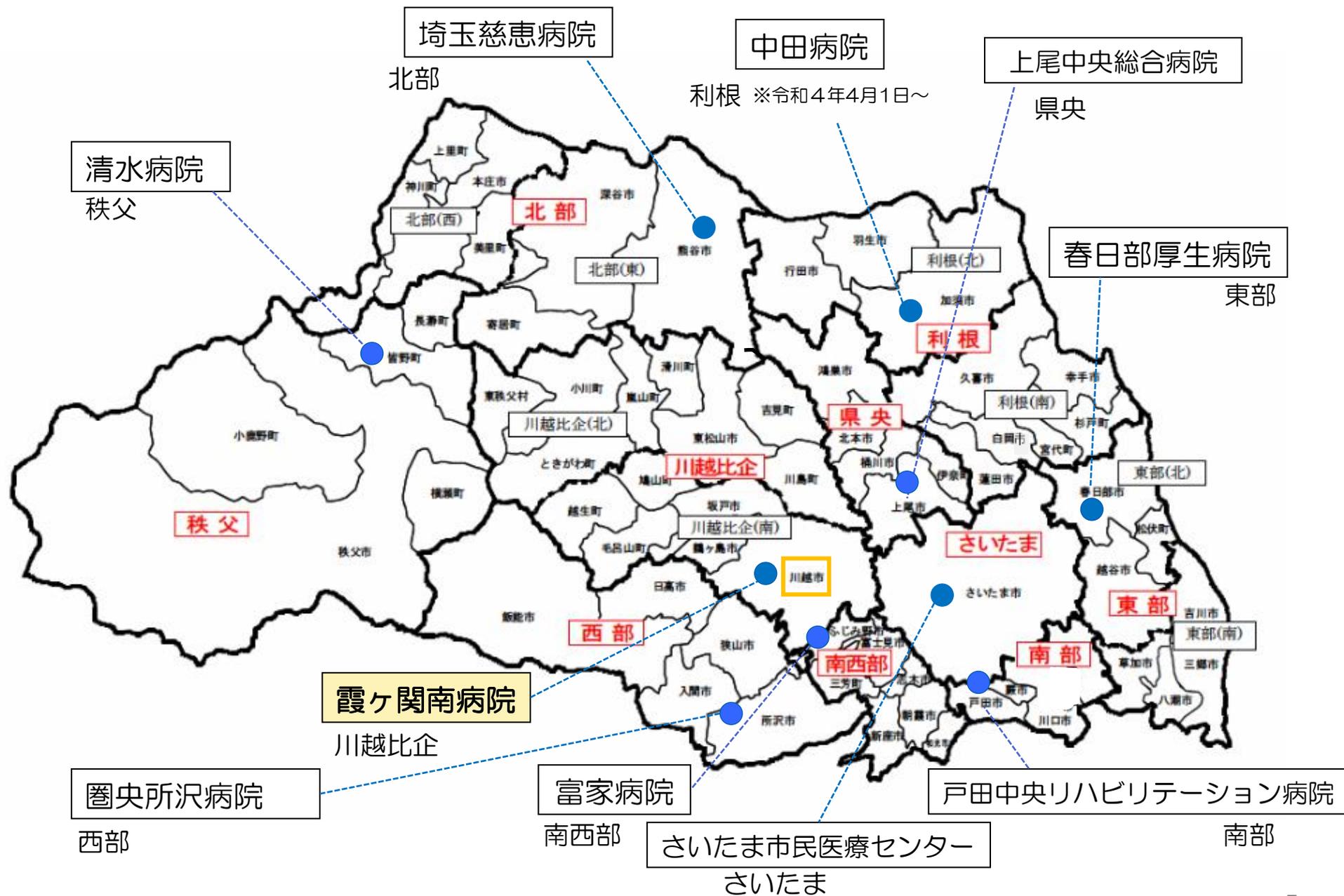
令和4年11月1日現在

順不同（敬称略）

	所属等	職名	氏名	備考
会長	医療法人 真正会	理事長	齊藤 正身	学識経験者 (川越市医師会会長)
	埼玉県医師会	副会長	廣澤 信作	関係団体
	埼玉県医師会	地域包括ケアシステム 推進委員会委員長	小川 郁男	関係団体
	埼玉県歯科医師会	常務理事	阿部 有孝	関係団体
	埼玉県理学療法士会	会長	南本 浩之	関係団体
	埼玉県作業療法士会	会長	宇田 英幸	関係団体
	埼玉県言語聴覚士会	会長	田尻 恵美子	関係団体
	埼玉県介護支援専門員協会	理事	伊藤 衛	関係団体
	埼玉県栄養士会	代表理事会長	平野 孝則	関係団体
	埼玉県歯科衛生士会	会長	大久保 喜恵子	関係団体
	新座市西部高齢者相談 センター	センター長	稲垣 一久	地域包括 支援センター
	埼玉県相談支援専門員協会	副代表	小金淵 美保子	障害者相談 支援センター
副会長	埼玉県福祉部	地域包括ケア局長	藤岡 麻里	県
	埼玉県保健医療部	医療政策局長	縄田 敬子	県
	埼玉県総合リハビリテーション センター	福祉局長	草野 敏行	県

任期：令和4年4月1日～令和6年3月31日

埼玉県の地域リハビリテーション・ケア サポートセンター 担当地区



埼玉県の活動紹介

【市町村等へのリハビリテーション職の派遣件数】

	①ボランティア養成講座	②介護予防教室	③地域ケア会議等	④その他の会議・研修会等	合計件数
H26年度	65	175	43	61	344
H27年度	198	609	210	201	1,218
H28年度	409	1,258	342	258	2,267
H29年度	556	2,019	533	438	3,546
H30年度	682	2,317	508	455	3,962
R1年度	613	2,297	593	960	4,463
R2年度	156	505	362	802	1,825
R3年度	406	674	675	1,058	2,813
R4年度	522	1271	834	1,137	3,764

〈リハビリテーション職の役割〉

- ① 介護予防サポーター養成講座の講師、講座運営支援など
- ② 通いの場の立上げ支援、再開支援、体操DVDの作成支援など
- ③ 助言者として参加、運営のアドバイスなど
- ④ 介護支援専門員会議、介護予防体操実施の打合せなど

医師会との連携

●県レベル

1. 地域リハビリテーション推進協議会で、県全体の取組等共有し、意見交換
 - ・ 県医師会から、副会長、地域包括ケア推進委員長等、複数名が参加
2. 地域リハビリテーション・ケア サポートセンター（広域支援センター）、地域リハ協力医療機関の指定に協力
 - ・ 指定候補施設などの検討協力、紹介
 - ・ 事業への協力を管理者に依頼
3. リハビリテーション専門職を派遣しやすい体制づくりに協力
 - ・ 事業の周知および協力依頼
 - ・ 所属施設のリハビリテーション専門職の事業参画を施設管理者に対して依頼



県地域リハビリテーション推進協議会 参加団体の役割

所属団体名	協力内容の例
県医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会：運営への協力、議事内容への助言 ・ サポートセンター・協力機関等の選定への協力 ・ リハビリテーション専門職派遣に関する所属長への協力依頼 ・ 関係機関への情報発信・周知 ・ 人材育成への協力 等
県歯科医師会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会：議事内容への助言 ・ 県資料作成への協力、資料等の情報提供、情報発信・周知 ・ 人材育成への協力
県理学療法士会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会：議事内容への助言 ・ 県作成資料への協力、資料等の情報提供、情報発信・周知 ・ 人材育成への協力（上記を、三団体一体となって実施）
県作業療法士会	
県言語聴覚士会	
県市町村保健師協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会：議事内容への助言 ・ 県作成資料への協力、資料等の情報提供、情報発信・周知 ・ 人材育成への協力
県介護支援専門員協会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会：議事内容への助言 ・ 県作成資料への協力、資料等の情報提供、情報発信・周知 ・ 人材育成への協力
地域包括支援センター代表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会：議事内容への助言 ・ 情報発信・周知、人材育成への協力
障害者相談支援センター代表	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会：議事内容への助言 ・ 情報発信・周知、人材育成への協力
県福祉部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 協議会：運営（事務局） ・ リハビリテーション専門職派遣に関する所属長への協力依頼 ・ 上記、職種や機関と連携しての事業・人材育成の企画・運営
県保健医療部	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業での連携（在宅医療・介護連携推進事業 等）
県総合リハビリテーションセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業での連携（地域診断・事業把握、高次脳機能障害者支援地域展開事業 等）

地域リハ推進協議会

指定書

霞ヶ関南病院

埼玉県地域リハビリテーション
ケアサポートセンターに指定
します



平成26年5月9日

埼玉県知事 上田 清司



指定書（サポートセンター・協力医療機関）

○地域リハビリテーションの事例報告

①埼玉県

②埼玉県川越市

③山梨県笛吹市

コミュニティケアネットワークかわごえの設立の経緯と目的

川越市医師会の取組み経過

取組みのきっかけ

- 平成26年 1月27日 第1回 医療介護フォーラム開催
- 平成26年10月 川越市から地域包括ケアシステム構築に向けた協議開始の依頼を受ける
- 平成27年 1月21日 第2回 医療介護フォーラム開催
- 平成27年11月13日 「(仮称)川越地域包括ケア推進協議会 第1回準備会」開催
- 平成27年12月 1日 「(仮称)川越地域包括ケア推進協議会 第2回準備会」開催
- 平成28年 1月13日 「(仮称)川越地域包括ケア推進協議会 第3回準備会」開催
「コミュニティケアネットワークかわごえ 役員会」開催

医療、介護、行政等の関係者が出席し、
コミュニティケアネットワークかわごえ（川越地域包括ケア推進協議会）を
川越市医師会に設立する合意形成がなされた。

コミュニティケアネットワークかわごえの目的

川越市における在宅医療・介護連携の推進について、**医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができるよう、在宅医療と介護サービスを一体的に提供するため**、川越市と連携し、地域の医療・介護関係者のネットワークの構築、同職種、多（他）職種間の資質向上を推進するにあたり、**医療と介護の連携のあり方や仕組みづくりについて協議を行う**ことを目的とする。

コミュニティケアネットワークかわごえ

医療系

川越市医師会

川越市歯科医師会

理学療法士会

川越市薬剤師会

作業療法士会

歯科衛生士会

言語聴覚士会

看護協会

栄養士会

柔道整復師会

鍼灸師会

埼玉医科大学総合医療センター

計27団体



介護予防 在宅療養

(目的)

ネットワークの構築
同職種間・多(他)職種間の資質向上
地域ケア会議の推進

介護系

居宅介護支援

訪問看護

訪問入浴・訪問介護

通所リハビリ

通所介護
認知症対応型通所介護

訪問リハビリ

短期入所療養介護
短期入所生活介護

福祉用具貸与
福祉用具販売

介護老人福祉施設
地域密着型介護老人福祉施設入所者生活介護

介護老人保健施設
介護療養型医療施設

認知症対応型共同生活介護
小規模多機能型居宅介護
看護小規模多機能型居宅介護

特定施設入居者生活介護
地域密着型特定施設入居者生活介護

川越市社会福祉協議会

地域包括支援センター

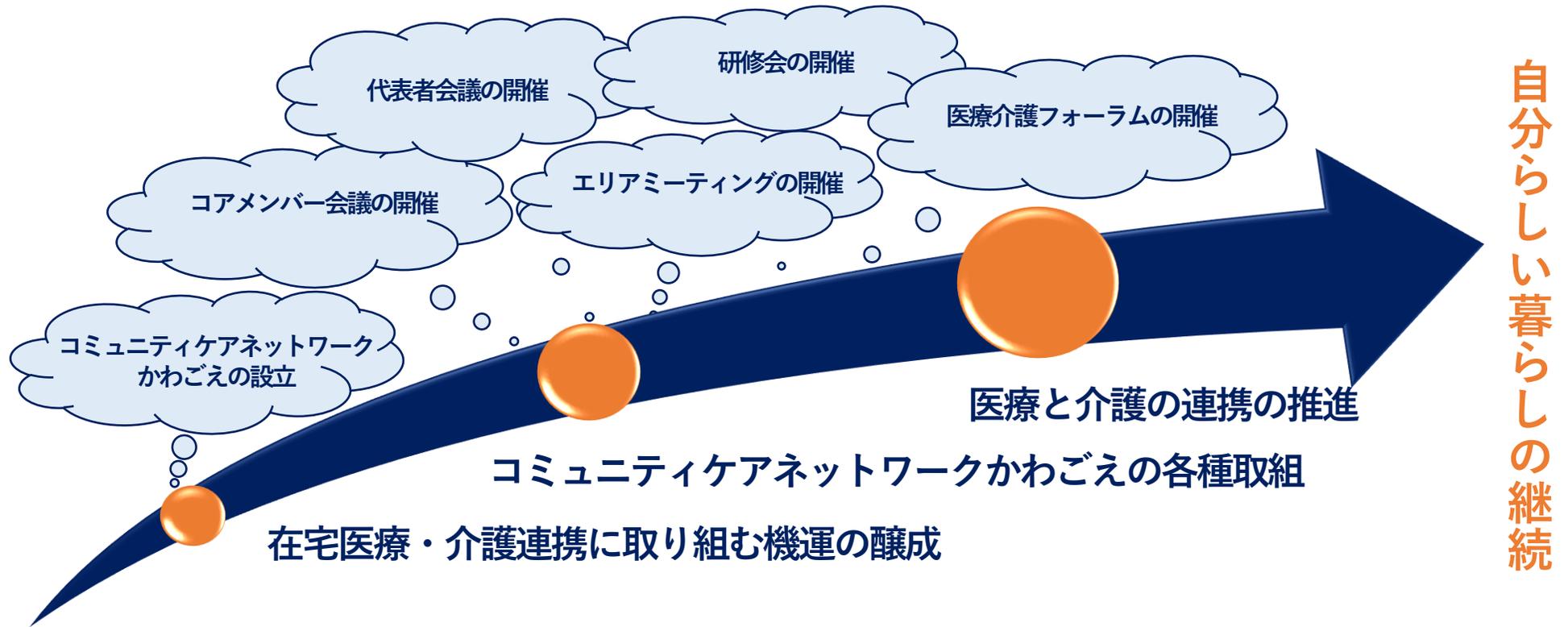
川越商工会議所

川越市

川越市在宅医療拠点センター

順不同 令和5年4月現在

コミュニティケアネットワークかわごえの方向性について



コミュニティケアネットワークかわごえの3つの取組みにより、医療と介護の連携の推進をはかることで、医療と介護の両方を必要とする状態の高齢者が、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを続けることができる。

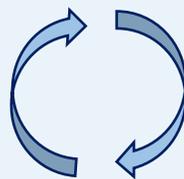
- 1 多職種の共通理解の促進、情報共有の円滑化
- 2 地域の多職種連携（顔のみえる関係）の具体化
- 3 職能・業種における同職種・多職種間の連携推進

コミュニティケアネットワークかわごえの推進体制

1 多職種の共通理解の促進、情報共有の円滑化

活動方針や取組内容の検討、決定

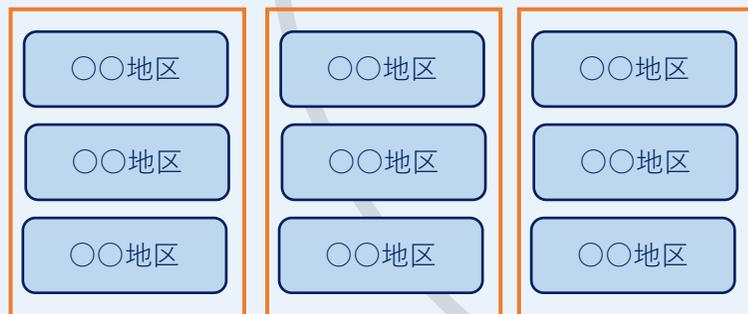
コアメンバー会議



代表者会議

2 地域の多職種連携（顔のみえる関係）の具体化

エリアミーティング



在宅医療の取組（往診医等との連携）

介護予防の取組（自立支援、重度化予防）

3 職能・業種における同職種・多職種間の連携推進



職能・業種団体間の協働・連携による取組

同業種間の連携（資質向上）

職能・業種の役割の明確化

多職種の共通理解の促進、情報共有の円滑化

コアメンバー会議

構成団体

8 団体で構成

- ①川越市医師会②川越市歯科医師会③川越市薬剤師会④埼玉県理学療法士会
⑤小江戸川越ケアマネジャー協会⑥かわごえ訪問看護連絡会
⑦川越市デイサービス連絡協議会⑧川越市地域包括支援センター

取組内容

全体の活動方針・取組内容の検討

- ・全体の活動方針や取組の提案
- ・エリアミーティングの企画立案
- ・医療介護フォーラムの企画立案

代表者会議

構成団体

全団体（27団体）で構成

取組内容

全体の活動方針・取組内容の検討及び決定

地域の多職種連携（顔の見える関係）の具体化

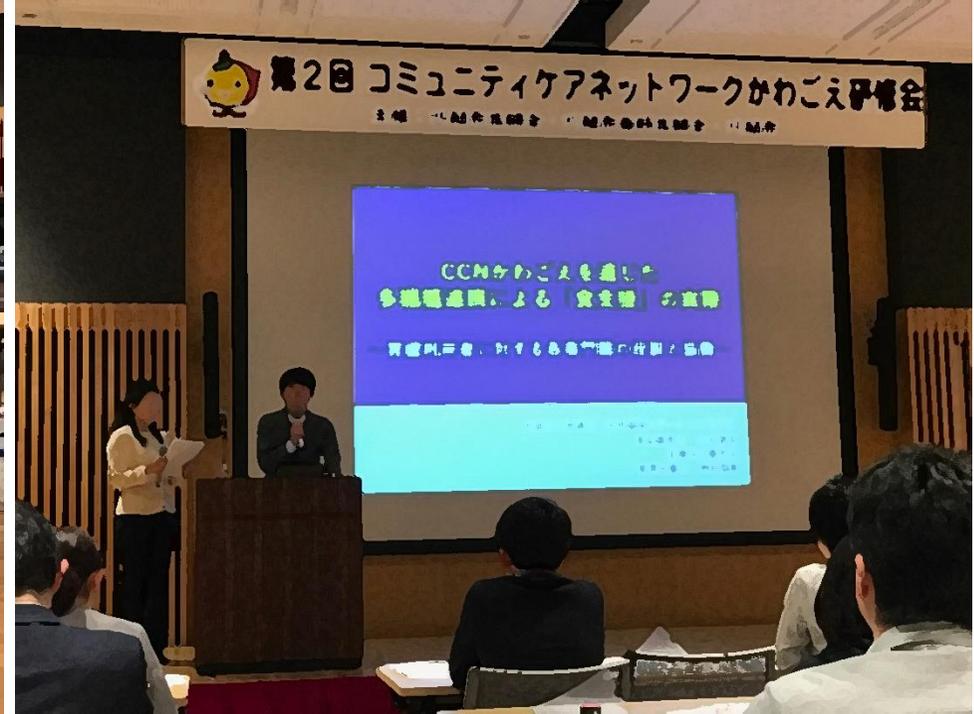
エリアミーティング

川越市内を**3つのエリア**に分け、エリアごとに医療・介護等関係者の
顔の見える関係づくりを行い、**地域での多職種連携の更なる強化**を行う

3つのエリア

川越市内9箇所の地域包括支援センターを3包括ずつにまとめたエリア





2017.10.25 多（他）職種資質向上研修会 360名参加 「多職種連携による食支援の実際」



2017エリアミーティング 「9圏域を3回に分け、事業所および関係者のネットワーク応援」

地域の多職種連携（顔の見える関係）の具体化

コロナ禍以前のエリアミーティングの様子は・・・



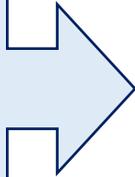
- ・ 様々な職種の人が集まり、活発な意見交換（ディスカッション）がおこなわれていた
- ・ 終了後も声をかけあい、顔の見える関係づくりがおこなわれ、連携を深めていた



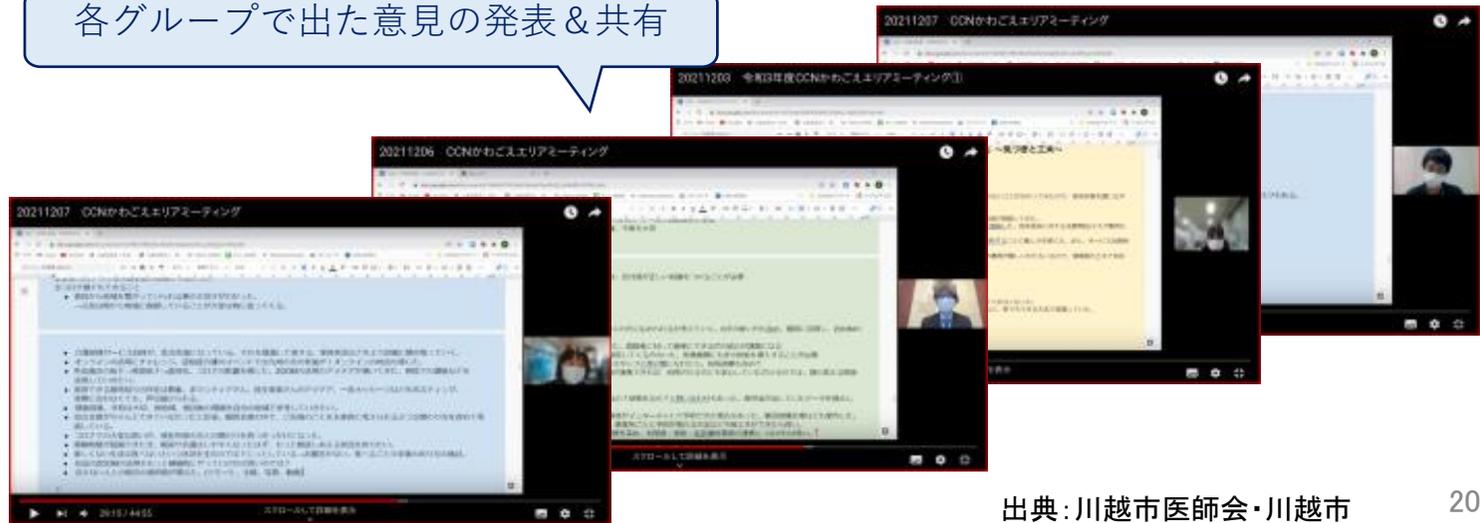
地域の多職種連携（顔の見える関係）の具体化



オンラインによる集い方の変化



各グループで出た意見の発表 & 共有



地域の多職種連携（顔の見える関係）の具体化

参加者数

令和3年度は合計202名が参加、令和4年8月は合計230名が参加
オンラインでの開催でも、多くの方が参加されている

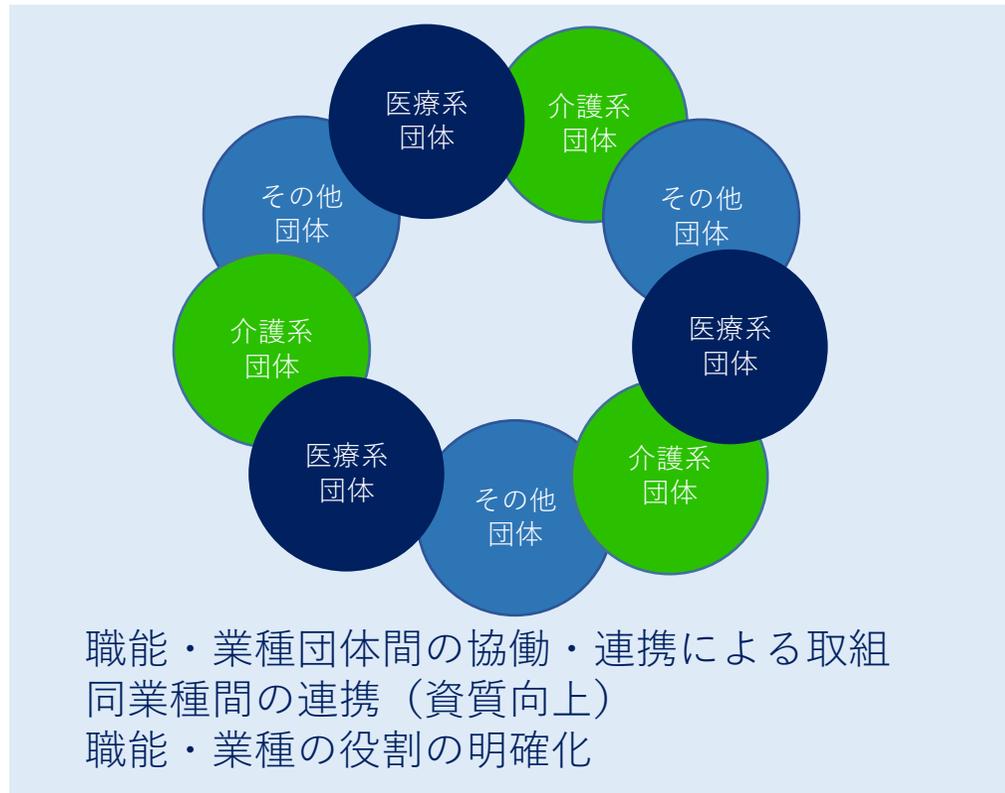
参加者アンケートより

- オンラインではあるが、久々に地域の関係機関と話や意見交換ができて良かった
- オンラインのエリアミーティングだったが、顔の見える会でよかった
- オンラインの利用が初めてだったため最初は戸惑いがあったが、画面越しでも相手の様子を見ながら話し合えたので、安心して発言できた
- オンライン化は便利だが、コロナ禍が落ち着いたら対面でも行いたい
- グループワークを通して、悩みや苦勞を共有し、励みや力になった



ICTを活用して、活発な意見交換や顔の見える関係性の構築に繋がった

職能・業種における同職種・多職種間の連携推進



日頃から各団体や専門職の協働や連携が行われている。

本日の医療介護フォーラムも、コミュニティケアネットワークかわごえの各団体や専門職の協働や連携があり、開催に至っている。



地域包括支援センターと協力

担当圏域ケア会議（まるごとネット）で健康講演



地域で暮らしの方々に 感謝を伝え、見守り続ける **医師による** せしめのための

人生会議 講座

～私が望みたい人生の締めくくりを過えるために～

人生会議ってなに？
人生の最終段階で、どんな医療やケアを受けたいか、自分自身で決めて考え、医師や介護する人たちに伝えたい思いを、共有することです。

今まで考えがなかったけど、どうやって決めたいの？

医療の進歩を呼びかけたいけど、どんなことか？

誰に相談するのがいいの？ 家族がかわらたらどうしよう...



～この講座にぜひ、一緒に考えてみましょう～

- ※ 講座時間 1時間45分
- ※ 定員 15名程度
- ※ 開催地・申し込み先 川越市地域包括支援センター
- ※ 費用は無料。お申し込みの際はご自身の都合をお知らせください。
- ※ 詳細については、お申し込みの際にご確認ください。

主催：川越市 川越市医師会
共催：川越市地域包括支援センター

医師会主催
地域包括支援センター共催

住民に直接普及啓発
医師による人生会議講座



出典：川越市医師会・川越市

○地域リハビリテーションの事例報告

①埼玉県

②埼玉県川越市

③山梨県笛吹市

山梨県笛吹市

医療機関での地域リハビリテーション活動

山梨県・笛吹市の概況

■ 主な概要

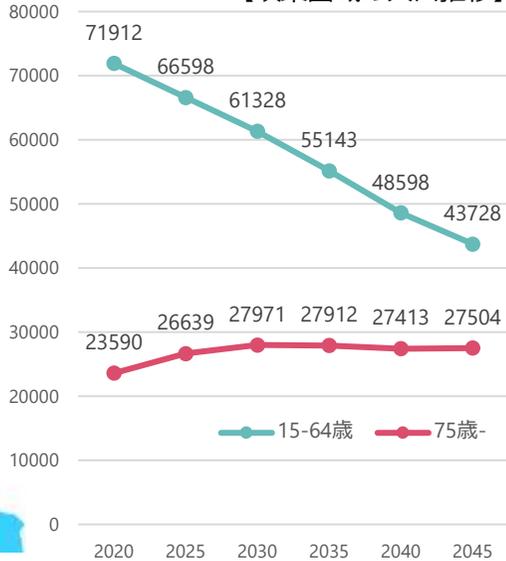
山梨県

- 総人口：801,620人
- 高齢化率：31.2%

笛吹市

- 総人口：67,967人
- 高齢化率：30.5%
- 石和温泉
- 桃・ぶどう収穫量日本一

【関東圏域の人口推移】



人口10万人対回復期リハビリ病床数
 山梨県： 115床（東日本1位）
 人口10万人対回復期リハビリ病床数
 笛吹市： 864床（全国平均73床）

甲州リハビリテーショングループ

（医療法人銀門会、社会福祉法人寿ノ家、株式会社サンライフ寿：職員数864人）



グループ理念：心をこめ保健・医療・福祉で地域に貢献

地域リハビリテーションの実践、医療と介護と地域の連携 「地域包括ケア推進部」の活動

- | | |
|---------------|--------------|
| 市町村からの相談支援 | 福祉教育への参加 |
| 個別地域ケア会議での助言 | 情報発信 |
| 川柳教室の開催 | 栄養相談会の実施 |
| 認知症カフェの開催 | キッチンカー活動支援 |
| 出前講座の実施 | まちづくりへの挑戦 など |
| 市サロン・集いの場への参加 | |

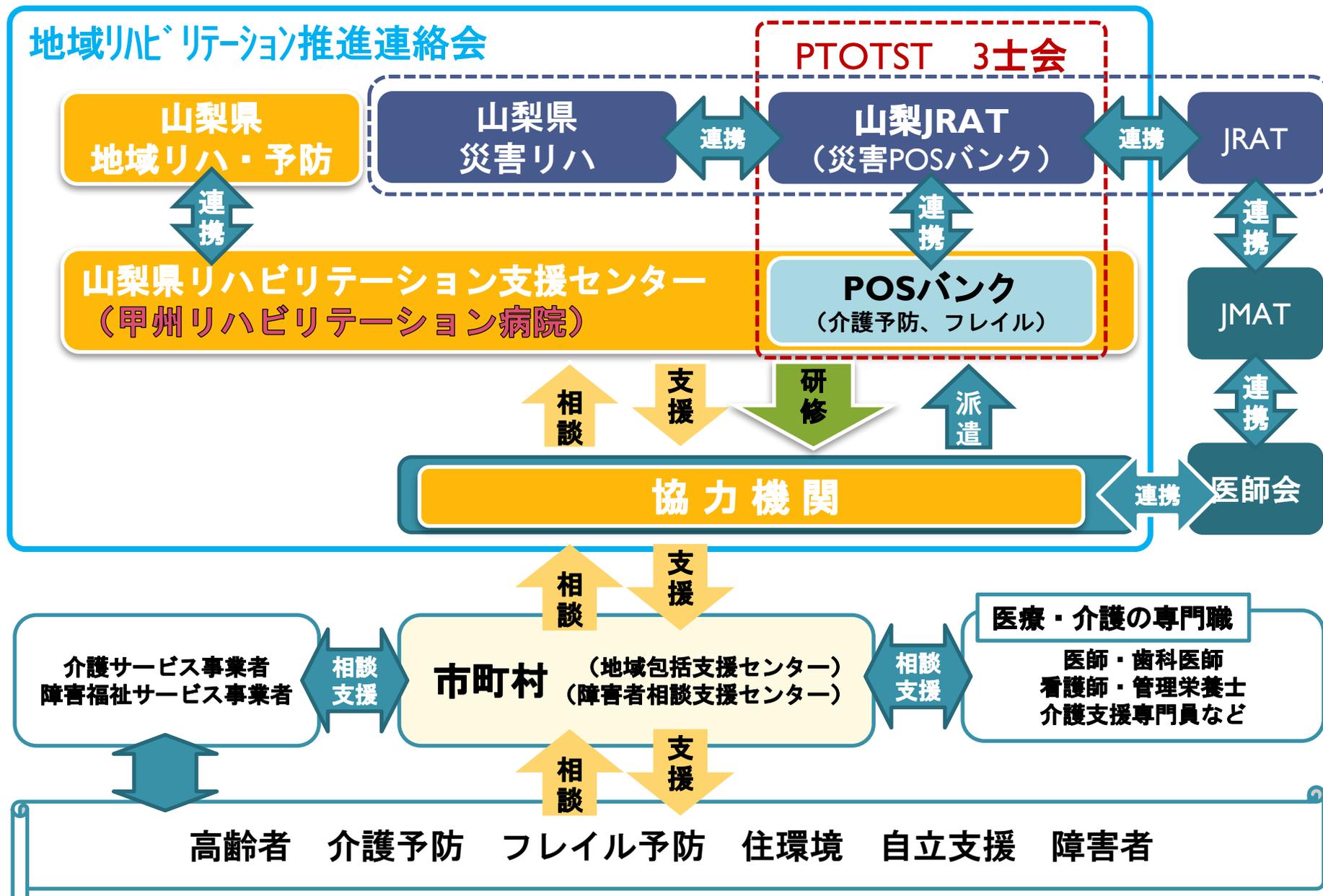


甲州リハビリテーション病院の概要 笛吹市石和町を拠点に活動

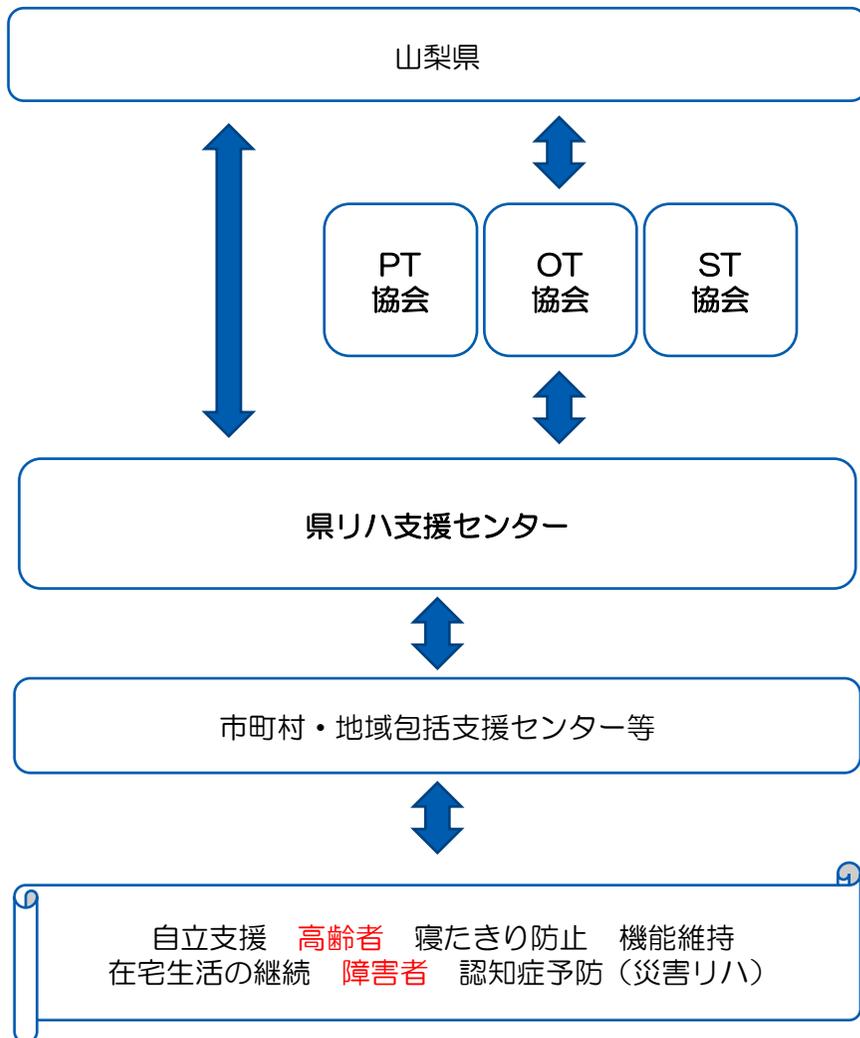
- 開設年月日 1965（昭和40）年11月23日 創業57年
- 病床数 180床（障害者施設等一般病棟：46床、回復期リハビリテーション病棟：134床）
- 診療科目 リハビリテーション科・整形外科・脳神経外科・リウマチ科・内科・循環器内科・神経内科・精神科・歯科



山梨県地域リハビリテーション支援体制（2021年から）



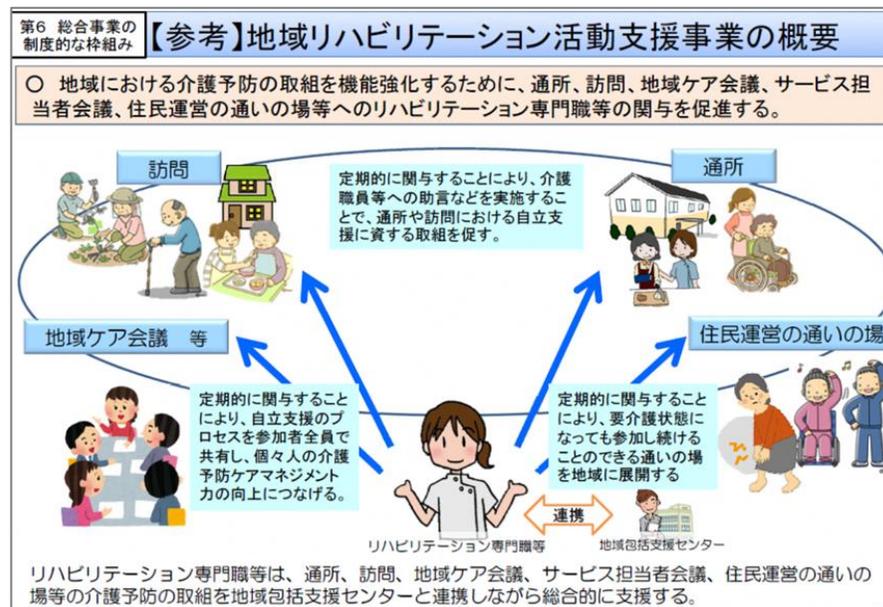
リハビリテーション専門職の登録派遣制度（POSバンク）



山梨県オリジナルの療法士派遣システム

協力機関が見つからない市町村にPOSバンクから派遣

県療法士会（3士会）が登録し、派遣調整は県リハ支援センターがおこなう



各市町村への周知と利用促進が課題

山梨県リハビリテーション支援センター（甲州リハビリテーション病院）の取組①

人口過疎村へリハビリテーション専門職を定期派遣



小菅村・丹波山村 地域支援事業



リハビリテーション専門職が実施する市町村への支援

〈個別リハビリテーション相談支援〉

〈個別地域ケア会議での助言〉



訪問相談報告書

2. 手すり等設置について

1) 玄関



【置き型踏み台付手すり（レンタル）】
写真のように手すりを設置すると、安全に上り下りが可能になります。

2) 居室



【置き型手すり（レンタル）】
写真のように置き型手すりを設置すると、転落を防ぐことができます。

〈サロン・集いの場への参加〉

- これまで出向いた集いの場 約30か所



笛吹市長寿包括支援センター（地域包括支援センター）； 笛吹市3ヶ所のうち2ヶ所受託

ワンストップ相談窓口を地域包括支援センターが担う

- 相談窓口の一体的相談支援

市町村包括的支援体制の制度化（地域共生社会推進検討会）

- 市町村事業、包括的支援事業の効果的な実施
- 継続的な住民へのリハ啓発
- 医療と介護と地域の連携の推進

地域包括支援センターの機能強化
リハ専門職を追加で配置

※2023年4月から「笛吹市」でも開始

保健師

主任ケア
マネ

社会福
社士

リハ職

山梨県リハビリテーション支援センター（甲州リハビリテーション病院）の取組③

管理栄養士の地域活動

地域住民の栄養ケアの拠点・かかりつけ管理栄養士へ！

機能強化型認定栄養ケア・ステーション

地域住民や自治体、民間企業への栄養相談、セミナー、料理教室の開催、地域包括ケアシステムに関わる事業関連業務を行う

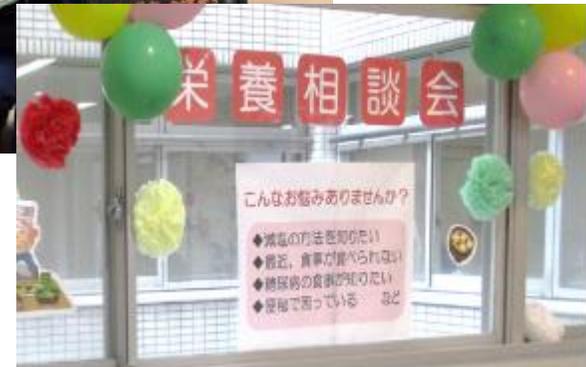
2022年 地域住民へキッチンカー始動

〈イベント内容〉

- ・宅配冷凍弁当の試食会
- ・日本栄養士会 栄養の日
- ・タンパク質30gランチ
- ・デイサービスへの出張
- ・体操教室への参加
- ・シニアクラブへの参加
- ・健康診断への参加 等



シニアクラブ×キッチンカー
作業療法士と協働



山梨県リハビリテーション支援センター（甲州リハビリテーション病院）の取組④

医師会と連携して、**笛吹市医療介護サポート推進検討会**を実施



医療と介護の地域連携を推進

2023年2月2日(木) 通常は参集からオンライン開催へ
「災害時対応の現状と連携の課題」

山梨県リハビリテーション支援センター（甲州リハビリテーション病院）の取組⑤

地域リハビリテーション活動を実践する人材の育成（リハ専門職への研修・サポート）

地域リハ塾（地域リハリーダーの育成）

0期生、1期生に参加



甲州新鮮組（若手の育成）



新選組

フレッシュな若手職員の
地域リハビリテ
ーション活動を支援



テレビ体操への企画・参加 山梨放送



病院の経営と地域リハビリテーション活動の関係



- 費用的には人件費が弁済される程度
- 経費は持ち出し



病床稼働率98.5% (2021年)

質の高いリハビリテーションに向けて

活動・社会参加に向けた取り組み 甲州畑プロジェクト

病院の隣地を開墾してリハビリ農園を造園 (借地)

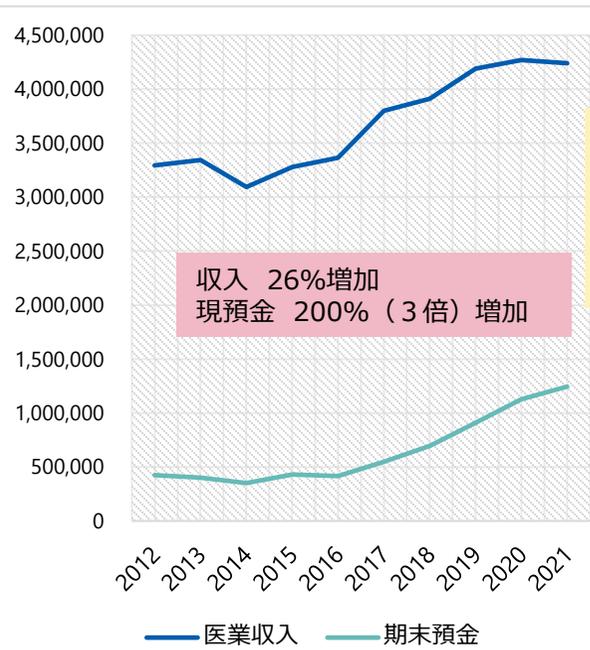


自動車運転再開支援

Hondaセーフティナビ、J-SDSA(脳卒中ドライバーのスクリーニング評価)
簡易自動車運転シミュレータ (SiDS)
教習所と連携して、実際の運転を通じた評価・練習



地域リハビリテーションの活動により、地域の信頼をえたことで、病院自体の患者・利用者の増加となる。



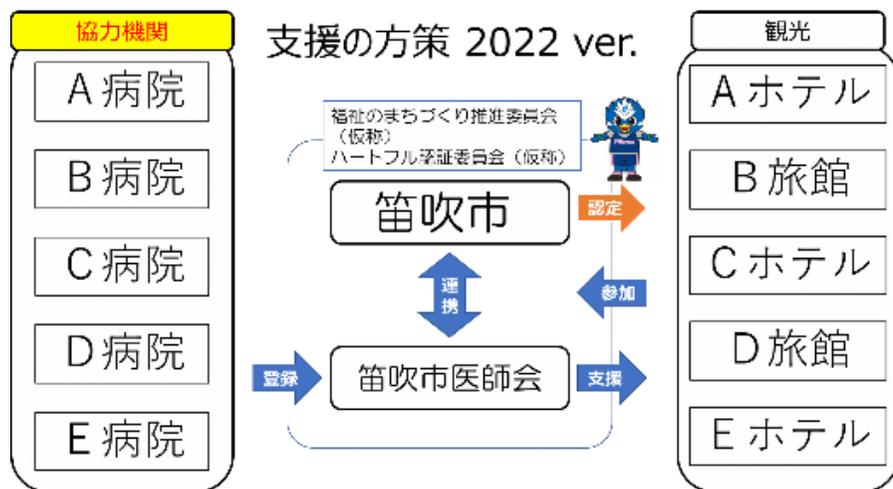
医師会や行政との連携による福祉のまちづくり、地域づくり

福祉の街 笛吹市の実現

—地域リハビリテーションを基盤とした観光への支援—



医師会と市観光商工課と観光業との連携
観光振興計画への提案



医師会と協力して福祉のまちづくりを観光業界へ働きかけ
高齢者、障害者などの利用しやすい観光施設・街づくり ⇒ 住みやすい地域づくり